

平成 22 年 4 月 6 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19530390

研究課題名（和文） オープン化時代の製品開発と市場成果に関する時系列調査

研究課題名（英文） Longitudinal study on R&D and new product development performance

研究代表者

濱岡 豊（HAMAOKA YUTAKA）

慶應義塾大学・商学部・教授

研究者番号：60286622

研究代表者の専門分野：マーケティング、製品開発論

科研費の分科・細目：経営学・商学

キーワード：研究開発、製品開発、イノベーション、オープン・イノベーション、ユーザー・イノベーション

1. 研究計画の概要

日本企業の研究開発、製品開発および市場における製品のパフォーマンスについての基礎的なデータを蓄積し、その変化の動向を把握することを目的とする。

2. 研究の進捗状況

本研究によって、研究開発、製品開発という2つの調査を過去3回行ってきた。研究開発についてはオープン・イノベーション、製品開発についてはユーザー・イノベーションを中心に分析を行い、それぞれの規定要因を明らかにした。

また時系列での比較を行うことによって、それぞれの調査で設定した250項目のうち、変化しないものが大部分であり、安定した傾向があることがわかった。一方、オープン化、モジュール化などに関連した項目を中心に20項目程度が変化していることがわかった。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

4. 今後の研究の推進方策

4年目が最終年度であり、最終的な総括を行うとともに、継続調査を行うための方策も検討する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3件）

1. 尤若安、石塚慧、濱岡豊 (2009), "製品開発についての調査 2008 単純集計の結果," 三田商学研究, Vol.52, No.6.p.印刷中 (査読無し)

2. 李佳欣、濱岡 豊 (2008)「研究開発についての調査 2007 単純集計結果」『三田商学』, Vol.51, No.5, p.99-115 (査読無し)

3. 馬雅瑾、紀曉穎、濱岡 豊 (2008)「製品開発についての調査 2007 単純集計結果」『三田商学』, Vol.51, No.3, p.75-89 (査読無し)

〔学会発表〕（計 5件）

1. Hamaoka, Yutaka (2010) "Asymmetry of In-bound and Out-bound Open Innovation", The 19th International Conference for Management of Technology, 9-11 March, Cairo, Egypt.

2. Hamaoka, Yutaka (2008) "How Do Technology Intermediaries Work?", Informs Annual Meeting, 15 Oct., Washington DC.

3. 李佳欣、馬雅瑾、紀曉穎、濱岡 豊 (2008)「イノベーションの源泉の規定要因 情報の粘着性仮説の再検討」『日本マーケティング・サイエンス学会 83 回大会』(6月22日、大阪府立大学)

4. Hamaoka, Yutaka (2008) "Antecedents and

Consequences of Open Innovation", R&D
Management International Conference, 19
June , Ottawa

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕